1. 選んだ本の書誌情報

デービッド・アトキンソン、『新・観光立国論』、東洋経済新報社、2015年

2. 目次

- はじめに 日本を救うのは「短期移民」である
- 第一章 なぜ「短期移民」なのか
- 第二章 日本人だけが知らない「観光後進国」ニッポン
- 第三章 「観光資源」として何を発信するのか
- 第四章 「おもてなしで観光立国」に相手のニーズとビジネスの視点を
- 第五章 観光立国のためのマーケティングとロジスティクス
- 第六章 観光立国のためのコンテンツ
- おわりに 2020年東京オリンピックという審判の日

3. 著者紹介

1965年 イギリス生まれ。

1992年 ゴールドマン・サックス入社。

日本の不良債権の実態を暴くレポートを発表した。1998年に同社取締役、
2006年に共同出資者となるが、マネーゲームに嫌気が指し2007年に退社。

2009年 小西芸術工藝(こうげい)社、取締役に就任。

2010年に代表取締役会長、2011年に同会長兼社長に就職する。

2015年 本著にて第24回山本七平賞を受賞。

2016年 三田証券株式会社の社外取締役に就任。

2017年 日本政府観光局の特別顧問に就任、現在に至る。

著本『銀行—不良債権からの脱却』(日本経済新聞社)

『イギリス人アナリスト 日本の国宝を守る』(講談社+a新書)

4. 選定理由

- ① なぜ日本経済には短期移民が必要になるのか。
- ② なぜ日本が観光後進国なのか。
- ③ 世界と日本の観光の違いについて。
- ④ 観光立国と観光大国の違いについて。
- ⑤ 日本人と外国人の価値観の違いについて。
- ⑥ 海外から見て日本の魅力とは何か。
- ⑦ どうしたら世界に日本の良さをアピールできるか。
- ⑧ 現在の日本の観光について。
- ⑨ 現在の日本の観光経済の問題点とは何か。
- ⑩ 2020年のオリンピックに向けて、日本の観光経済について。